



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)フィール磐田店	BEE	0.8	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.2 /5		ふつつ		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9 /5		がんばろう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5 /5		ふつつ		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7 /5		がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目			
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。					
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>		得点		3.2	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) 室内環境の快適性を考慮した空調設備計画と照明設備計画とした。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 周辺の景観に対して調和のとれた建物配置、高さを配慮した計画とした。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) 効率的なLED器具の採用等により省エネ性能の高い計画とした。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) 節水型機器の便器の採用と、汚染物質含有材料を使用しない計画とした。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 周辺の景観に対して調和のとれた建物配置、高さを配慮した計画とした。</p>	Q-1	2	2.1	2.1.2	① 外皮性能
	Q-1	3	3.1	3.1.3	② 昼光利用設備
			3.2	3.2.1	③ 昼光制御
	Q-2	2	2.2	2.2.1	④ 躯体材料の耐用年数
			2.2.2	④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔	
			2.2.3	④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
			2.2.4	④ 空調換気ダクトの更新必要間隔	
			2.2.5	④ 空調・給排水配管の更新必要間隔	
			2.2.6	④ 主要設備機器の更新必要間隔	
	Q-3	1		⑤ 生物環境の保全と創出	
		3	3.2	⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	LR-1	1		⑦ 建物外皮の熱負荷抑制	
		2		⑧ 自然エネルギー利用	
		3		⑨ 設備システムの高効率化	
		4	4.1	⑩ モニタリング	
			4.2	⑩ 運用管理体制	
	LR-2	1	1.1	⑪ 節水	
			1.2	⑪ 雨水利用システム導入の有無	
			1.2.1	⑪ 雑排水等利用システム導入の有無	
			1.2.2	⑪ 材料使用量の削減	
		2	2.1	⑫ 既存建築躯体等の継続使用	
			2.2	⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
			2.3	⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
			2.4	⑫ 持続可能な森林から産出された木材	
			2.5	⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み	
			2.6	⑫ 有害物質を含まない材料の使用	
		3	3.1	⑬ 消火剤	
			3.2	⑬ 断熱材	
			3.2.1	⑬ 断熱材	
			3.2.2	⑬ 断熱材	
			3.2.3	⑬ 断熱材	
	LR-3	1		⑭ 地球温暖化への配慮	
		2	2.2	⑮ 温熱環境悪化の改善	
<b>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</b>		得点		2.9	
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 特になし</p>	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯ 耐震性
				2.1.2	⑯ 免震・制振性能
			2.4	2.4.1	⑰ 空調・換気設備
				2.4.2	⑰ 給排水・衛生設備
				2.4.3	⑰ 電気設備
				2.4.4	⑰ 機械・配管支持方法
				2.4.5	⑰ 通信・情報設備
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b>		得点		3.5	
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 周辺の景観に対して調和のとれた建物配置、高さを配慮した計画とした。</p>	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱ ユニバーサルデザイン計画
		3	3.1	3.1.1	⑲ 階高のゆとり
				3.1.2	⑲ 空間の形状・自由さ
	Q-3	3	3.1		㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b>		得点		2.7	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) 周辺の景観に対して調和のとれた植栽計画とした。</p> <p>■敷地外環境対策 (㉔持続可能な森林から産出された木材/㉕温熱環境悪化の改善) 特になし</p>	Q-3	1		⑳ 生物環境の保全と創出	
		2		㉒ まちなみ景観への配慮	
		3	3.2		㉓ 敷地内温熱環境の向上
	LR-2	2	2.5	㉔ 持続可能な森林から産出された木材	
	LR-3	2	2.2	㉕ 温熱環境悪化の改善	

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版\_速報版

| 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)フィール磐田店	階数	地上1F
建設地	静岡県磐田市下万能413-1の一部	構造	S造
用途地域	指定なし、法22地域	平均居住人員	0人
地域区分	7地域	年間使用時間	0時間/年(想定値)
建物用途	物販店、工場	評価の段階	
竣工年	2025年6月 予定	評価の実施日	2024年7月16日
敷地面積	4,674 m <sup>2</sup>	作成者	野崎 充敏
建築面積	3,007 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,911 m <sup>2</sup>	確認者	

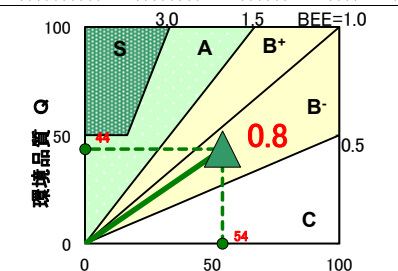


シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8**

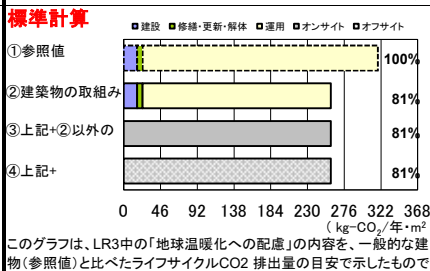
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★



### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

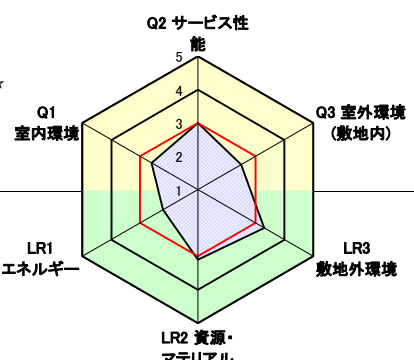
標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

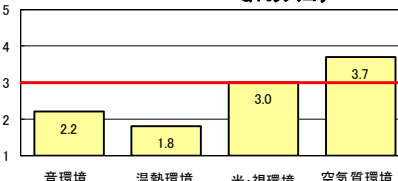


### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

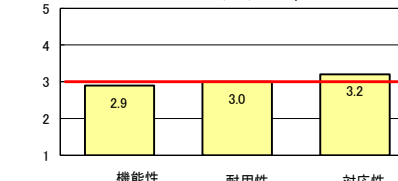
#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.6



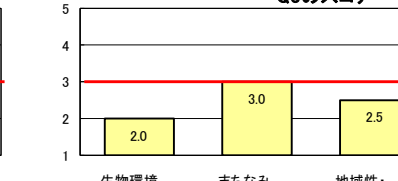
#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0



#### Q3 室外環境(敷地内)

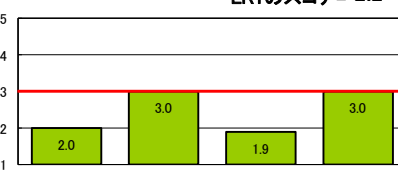
Q3のスコア= 2.5



**LR のスコア = 2.8**

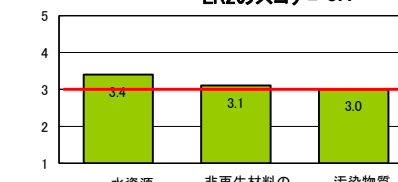
#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.2



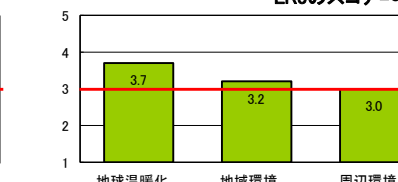
#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1



#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3



3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。 物販店舗として、コストを考慮しつつも店舗空間の快適性や利便性及び、省エネ効果を考慮した計画とした。		<b>その他</b> 0
<b>Q1 室内環境</b> 室内環境の快適性を考慮した空調設備計画と照明設備計画とした。	<b>Q2 サービス性能</b> 天井高さをH=3.6m以上とし、室内の快適性と室内環境の向上につつ、壁長さ比率を小さく抑え、空間の自由度を高めた計画とした。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 周辺の景観に対して調和のとれた建物配置、高さを配慮した計画とした。
<b>LR1 エネルギー</b> 効率的なLED器具の採用等により省エネ性能の高い計画とした。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型機器の便器の採用と、汚染物質含有材料を使用しない計画とした。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率を抑えた計画とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される